



校報

大野っ子



洋野町立大野小学校
校報 第11号 文責 久保田
令和5年7月19日(水)

【宿泊体験学習】

5年生 自然の中で豊かな体験！

県北青少年の家で5年生が宿泊体験学習を実施しました。みんなで協力したウォークラリー。野外炊事では、火起こし体験をし、その種火を使ってカレーライスを作りました。後片付けも立派でお鍋をピカピカに磨きほめられました。一人一人が自分の役割をしっかりと果たし、寝食を共にした体験は生涯心に残るものとなったことでしょう。



↑ ネイチャーゲーム



知恵を出し合い、たくさん歩いたウォークラリー



キャンプファイヤー



↓ カレーライス、おいしくできました



【火起こし体験】力を合わせて起こした種火



かまどで炊事

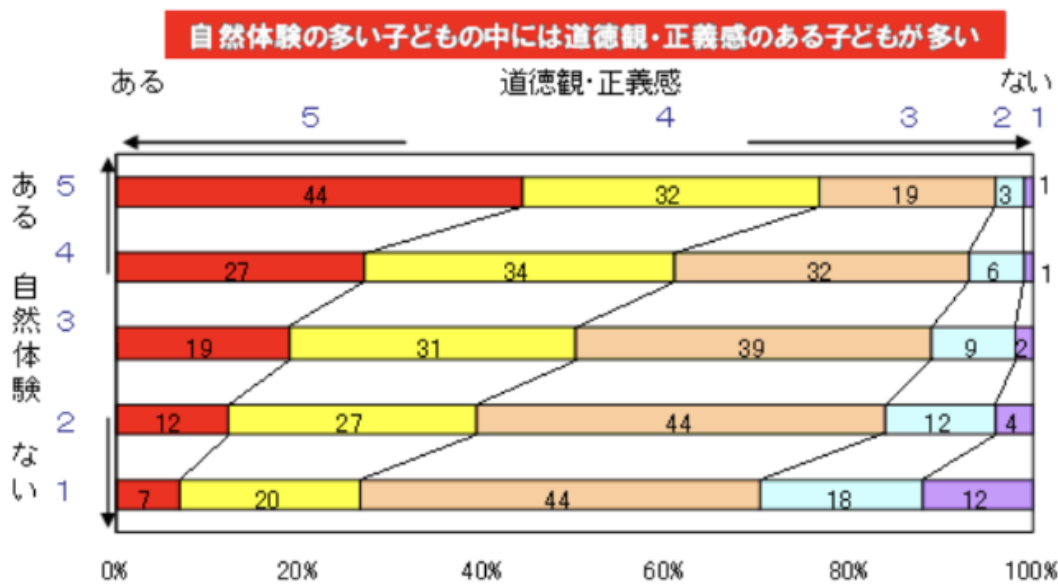


↑ プラネタリウム

【多様な体験を】

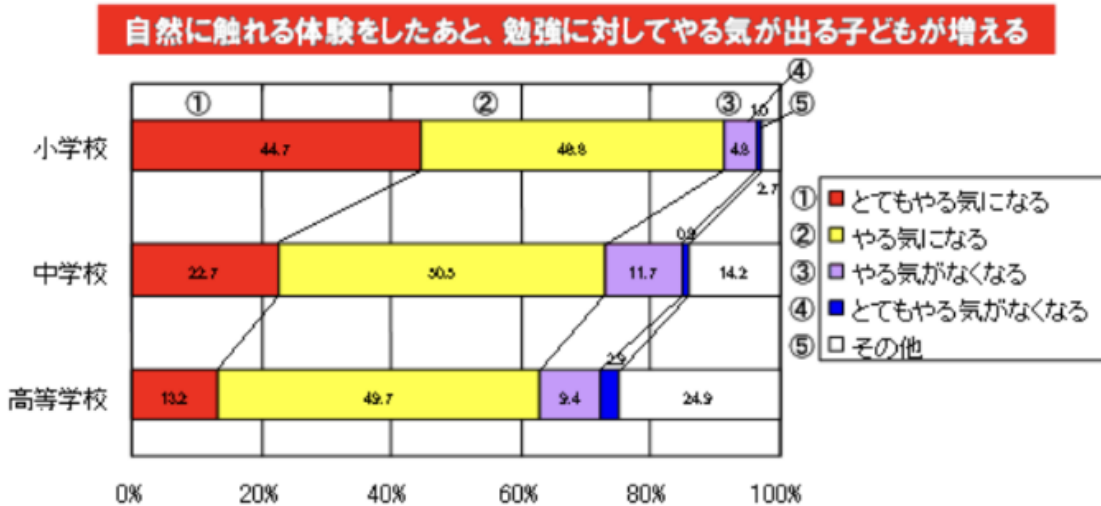
社会環境が変化する中で、子ども達が様々な体験をする機会が近年減ってきています。学校では、子ども達の社会性や豊かな人間性を育むため、ひろの学「海洋教育」（地域学習）や宿泊体験学習など様々な体験活動を実施しています。これまでの様々な調査研究から、「体験活動は、子どもの成長にとって大切な要素だ」ということが裏付けられています。

もうすぐ夏休みです。休み中は、地域や家庭の中で様々な体験活動を積極的に行ってほしいと思います。豊かな体験は、豊かな心を育みます。



※グラフ中の数値は5段階の割合を示す。

(H17独立行政法人国立青少年教育振興機構「青少年の自然体験活動等に関する実態調査」より)



(H14文部科学省委嘱研究「学習意欲に関する調査研究」より)

結果

1

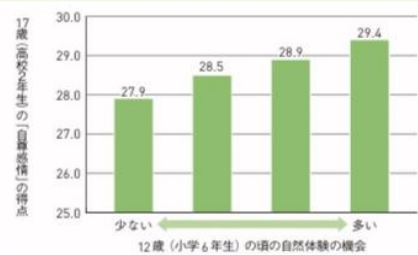
小学生の頃に体験活動などをよくしていると、その後の成長に良い影響が見られることが分かりました

21世紀出生児縦断調査で回答されたデータを再分析したところ、小学生の頃に体験活動（自然体験、社会体験、文化的体験）や読書、お手伝いを多くしていた子どもは、その後、高校生の時に自尊感情（自分に対して肯定的、自分に満足している、など）や外向性（自分のことを活発だと思ふ）、精神的な回復力（新しいことに興味を持つ、自分の感情を調整する、将来に対して前向き、など）といった項目の得点が高くなる傾向が見られました。また、小学生の頃に異年齢（年上・年下）の人とよく遊んだり、自然の場所や空き地・路地などでよく遊んだりした経験のある高校生も同様の傾向が見られました。

このことから、**小学生の頃に行った体験活動などの経験は、長期間経過しても、その後の成長に良い影響を与えている**ことが分かりました。また、経験した内容（体験活動や読書、遊び、お手伝い）によって影響が見られる意識や時期が異なることから、子どもの健やかな成長を確かなものにしていくためには、1つの経験だけでなく、多様な経験をする必要があるということも見えてきました。

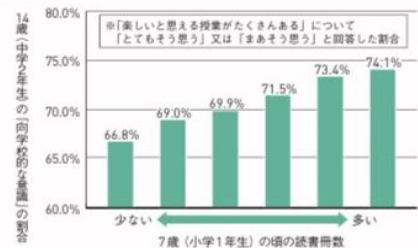
「体験活動」の影響

体験を多くすることによる影響を自然体験（キャンプ、登山、川遊び、ウィンタースポーツなど）、社会体験（農業体験、職業体験、ボランティア）、文化的体験（動植物園・博物館・美術館見学、音楽・演劇鑑賞、スポーツ観戦など）に分けて分析したところ、自然体験では主に自尊感情や外向性、社会体験では小・中・高校生の時期の向学校的な意識（勉強・授業が楽しい）、文化的体験は全ての意識（裏面参照）に良い影響が見られることが分かりました。



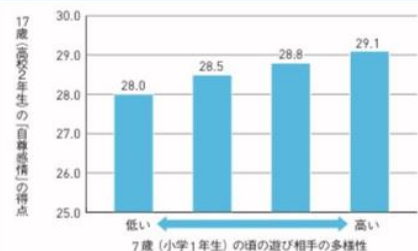
「読書」の影響

読書を多くすることによる影響を分析したところ、新奇性追求（新しいことに興味を持つ、など）や感情調整（自分の感情を調整する、など）、肯定的な未来志向（将来に対して前向き、など）といった精神的な回復力や、小・中・高校生の時期の向学校的な意識に良い影響が見られることが分かりました。



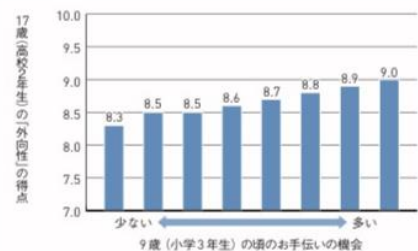
「遊び」の影響

遊び相手などによる影響を分析したところ、異年齢の子どもや家族以外の大人とよく遊ぶなど多様な相手と遊ぶ機会が多いと、自尊感情や外向性などに良い影響が見られることが分かりました。



「お手伝い」の影響

お手伝いを多くすることによる影響を分析したところ、自尊感情や外向性を始め、精神的な回復力、向学校的な意識など、全ての意識に良い影響が見られることが分かりました。



※上記の分析結果の詳細は、令和2年度体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト「青少年の体験活動の推進に関する調査研究 報告書」の「参考資料（各調査・分析結果の詳細）」をご覧ください。